

# 春だけの出会い「ツマキチョウ」を探そう！

3月中旬以降は、25℃を越える夏日になったと思えば、翌日は10℃を下回る真冬並みの寒さになるなど、気温の変動が大きく、4月に入ってやっと、大陸の暖かい移動性高気圧と、冷たい風を呼び込む温帯低気圧が交互にやってくる三寒四温の春らしい気象変化で、段々と春らしい暖かさになりました。まだ大型の蝶は姿を見ませんが、成虫で冬を越して春を待っていた種類や、早春から羽化をして飛び回る蝶たちが、ちらほらと飛び始めました。



写真：蝶と昆虫のWEBメディア 蝶の図鑑より

## ■「春」4月のひと月限定の種類

蝶には、成虫で冬を越す（越冬）もの、卵で越すもの、蛹で越すものなど、種類により異なりますが、多くの蝶は、産卵⇒孵化・幼虫⇒蛹（さなぎ）⇒羽化・成虫⇒産卵…、という生活サイクルを春～夏～秋の3シーズンで数回行い、世代交代を何回か行います。

日本には、30種類ほどの白い蝶（シロチョウ科）がいますが、その中で、ツマキチョウという種類は、蛹で冬を越し、春4月に羽化をして飛び回り、5月に産卵・孵化をして、春の野草を食べて育ち、6月には蛹となって、夏・秋・冬の9か月間は蛹で過ごしてじっくり成長をして、翌年の春に羽化をするというサイクルで、1年間で一世代だけというかわったタイプです。

そのため、日本中にいる普通種で、モンシロチョウと一緒に飛んでいることも多いのですが、見られる期間がひと月ほどと短く、意識しないと見過ごしてしまう蝶々です。今年も、あと数週間で姿を消してしまいます。ぜひ探してみてください。



オス

写真：蝶と昆虫のWEBメディア 蝶の図鑑より

## ■「ツマキチョウ」 チョウ目 シロチョウ科 ツマキチョウ属

【特徴】前翅（ぜんし・前のはね）の先端がとがっている。モンシロチョウなどは丸まっている。前翅の表の先端付近の黒斑の中に、雄は山吹色の紋がある（飛んでいる時はあまり目立たない）。雌にはない。翅の裏は枯草もよう。

【飛び方】モンシロチョウより一回り小さく、モンシロチョウがひらひらと飛び回るのに対して、小刻むに翅を羽ばたかせて、同じ高さを直線的に飛びます。

【食性】幼虫は、ヤブガラシやタネツケバナなどのアブラナ科の花や蕾、若い種子の鞘など、成虫はタンポポやオオイヌノフグリなどの花の蜜、けっこう何でも食べるそうです。



メス

### 【参考 HP】

#### ①板橋区立エコポリスセンター 「デジタル図鑑」

<https://butterflyits-econopolis.jp/portfolio/%e3%83%84%e3%83%9e%e3%82%ad%e3%83%81%e3%83%a7%e3%82%a6/>

#### ②蝶と昆虫のWEBメディア 「蝶のWEB図鑑」

<https://www.choublog.site/tumakityou/>

①



②

